

## アイロニー表現の収集と分析について

1M-9

滝澤 修 伊藤 昭

郵政省通信総合研究所 関西先端研究センター

## 1. はじめに

反語や皮肉などのアイロニーは、標的者を非難・揶揄することを意図した言語表現である。これは言外の意味を含む表現の一つとして、比喩などと同様に、高度な言語理解システムの実現のために無視できない表現である。筆者らは、限定されたアイロニーについて、その定式化<sup>[1]</sup>と工学的検出の方法<sup>[2]</sup>を既に提案した。本発表では、アイロニーの定義をよりの確に定めることを目指し、多数収集したアイロニーを分析し、従来の定義から逸脱したアイロニーにも共通して見られる特徴を検討した結果について報告する。

## 2. 収集方法

語学専攻の大学生44名にアンケート形式で、アイロニーを自由に創作させた。被験者には1人20個以上のアイロニーを創作するよう指示した。アイロニーは状況に依存した発話であるので、被験者には状況説明とアイロニーの発話内容とを組にして簡潔に創作するよう指示した。実験は被験者ペースとし、制限時間は設けなかった。

## 3. 分析と考察

得られた延べ932個のアイロニーについて、「アイロニー」の意味を誤解して創作したと明らかに判断されるものを除いて、意味的に分析した。その結果、すべてのアイロニー発話は、以下の3つの特徴のいずれか(1つまたは複数)を必ず有することがわかった。

## ●状況と発話とに不整合がある発話(特徴1)

状況と発話との関係において、常識的な観点からの不整合が存在する。即ち、発話がその状況における事実と反した(反事実)、あるいはありえない内容である。以下に例を示す。

(1) 授業中、おしゃべりに夢中になって教師の発言を聞きのがした生徒が、教師の質問に答えられなかった。その際の教師の発話。

「君は、僕の声だけ聞こえないようだね。」

(特定の人の声だけ聞こえないことは常識的にありえない。)

(2) シルバーシートに腰かけた若者が席を立たない。その前に立った老女の発話。

「目が見えないのかな。」

(本当に目が見えない人が座っている状況は一般に考えにくい。)

## ●発話内に不整合がある発話(特徴2)

発話に、事実と反事実とが併存していることによって、発話内に常識的な観点からの不整合が生じている。発話に反事実が含まれているため、状況と発話との関係にも不整合が存在することになる。従ってこの特徴は、特徴1の一種と考えることもできる。以下に例を示す。

(3) 子供が小さい声で謝った時の母親の発話。

「声が大きすぎて聞こえません!!」

(声が大きすぎて(反事実)聞こえない(事実)ことはありえない。)

## ●標的者の価値を高める内容の発話(特徴3)

賞賛、謙遜、謝罪、感謝、励ましなどを含む発話である。以下に例を示す。

(4) 乗物の中で足を広げて座っている人に対する発話。

「あなたの足、とても長いんですね」

(5) 掃除を手伝わずに遊んでいる生徒に対する発話。

「お疲れのところ申し訳ないが、手伝ってもらえないかな。」

(6) 朝寝坊して学校に遅刻した生徒に対する教師の発話。

「今朝は、さぞかしよく眠れただろう。」

(7) 買い物で値切った際に、愛想なく「安くできません」と言われた客の発話。

「どうも、ありがとう。」

従来、アイロニーは、状況と発話内容とが意味的に反対関係にあり、かつ発話内容が賞賛の意味をもつ(誉め言葉)、という2つの条件を満たすものに限定されていた(注)<sup>[4]</sup>。この2つの条件は、それぞれ特徴1と特徴3の一部とし

て扱うことができる。(8)～(10)に、特徴1と特徴3の両方を有している例を示す。(8)と(9)は、従来の定義に合致するものであることから、アイロニーとして最も典型的なものといえる。

- (8) 昼過ぎに起きた人に対する発話。  
「早起きね。」
- (9) 仕送りをムダ使した子に対する母親の発話。  
「あなたは親孝行な子ね。」
- (10) A子が正午にB子に電話するとB子はまだ寝ていた。  
A子の発話。  
「あら、起こしちゃったの？ 朝早くにごめんなさいね。」

指摘した3つの特徴のうち1つでも有していれば、アイロニーになり得ることが、検討の結果わかった。但し従来の定義のように複数の特徴を有している方が、1つだけの場合よりも、理解されやすいアイロニーになる傾向がある。例えば(11)の場合、複数の特徴を有している②のほうが、1つだけの①よりも、より理解されやすいアイロニーと考えられる。

- (11) 花子がコーヒーを買って来てと妹に頼んだが、妹は間違えて紅茶を買ってきた。その紅茶を飲みながらの花子の発話。
- ①「ああ、おいしい、この紅茶。」 (特徴3のみ)
- ②「ああ、おいしい、このコーヒー。」  
(「コーヒー」は反事実。) (特徴1と特徴3)

アイロニーは、嘘とは異なり、聞き手にアイロニーであることを示す「信号」を送る必要がある表現である<sup>[3]</sup>ため、「信号」が多い(即ちアイロニーとしての特徴を複数有している)ほうが、理解されやすいアイロニーになるのは、至極当然と考えられる。

また、特徴2と特徴3とを両方有する例を、(12)～(14)に示す。

- (12) 友人の中古の車を運転している人の発話。  
「このブレーキのききの悪さ、まるで新車並や。」
- (13) 待ち合わせ時間に、だいぶ遅れてきた人に対する発話。  
「私も今来た所です。たった2時間待っただけですから。」
- (14) よく皿を割るウェイトレスに対する店長の発話。  
「本当に仕事を増やしてくれてうれしいよ。」

特徴2は、その発話自体が不合理なものであるため、Grice<sup>[6]</sup>の「質の公理」に違反した発話であることを発話者が認識していることを聞き手が容易に認識できる。そのため、特徴2を有する発話は、アイロニーとして理解されやすい傾向がある。例えば、(15)の2つの発話を比較

すると、特徴2を用いた②のほうが、より理解されやすいアイロニーと考えられる。

- (15) つまらない演奏会の感想。
- ①「たいへんいい演奏なので、聞き惚れました。」 (特徴1と特徴3)
- ②「たいへんいい演奏なので、ぐっすり眠れました。」 (特徴2と特徴3)  
(いい演奏とぐっすり眠れることとは常識的に不整合。)

#### 4. 課題

今回分析対象としたアイロニーは、創作されたものであるため、ステレオタイプ的になっている問題点がある。アイロニーは、比喻のように、大規模に収集されたサンプルに基づく分析が、工学的にも言語学的にもまだあまりなされていない。比喻のように<sup>[6]</sup>、文芸作品等から収集したアイロニーを分析対象とするべきであろう。

また今回の分析では、意味関係のみに着目したが、アイロニー標識(音声における大げさな抑揚や、異常な丁寧さ、「ねえ」などの終助詞の使用など)の存在が、アイロニー理解に重要な役割を果たしていると考えられるので、検討が必要である。

現段階では主観的分析にとどまっているが、アイロニーっぽさは客観的に判定される必要があるので、今後はアイロニーを複数の被験者に呈示し、アイロニーっぽさを定量評価させて分析することを考えている。

#### 5. おわりに

多数のアイロニーを分析し、従来、アイロニーの定義とされていた、意味的反対関係と賞賛的意味とをもつ表現以外にも、アイロニーになり得るものがあることを指摘し、その表現の特徴を検討した。今後も収集と分析を進め、婉曲表現においてアイロニーが占める位置を明確にし、アイロニーをよりの確に定義することを目指していきたい。

【謝辞】日頃ご指導頂く柳田益造室長に感謝致します。

【参考文献】[1]伊藤他:情処研報, 93-NL-94-2(1993.3). [2]滝澤:情処研報, 92-NL-92-8(1992.11). [3]橋元:「背理のコミュニケーション」, 勁草書房(1989). [4]安井:「言外の意味」, 研究社出版(1978). [5]Grice, H. P.: "Logic and conversation", Cole and Morgan(eds.) (1975). [6]中村:「比喻表現の理論と分類」, 秀英出版(1977).

(注)「私は努力したのですよ。」「ほお、努力ねえ。」のような"provoked irony"は対象外としている。